

高齢者レク活動の視点からみたエルダーホステル活動について

—北米インカネーション・キャンプの事例から—

○廣田治久（余暇問題研究所）

山崎律子（余暇問題研究所） 川向妙子（東海大学）

キーワード； 高齢者 QOL エルダーホステル (Elderhostel)

1. はじめに

近年、高齢化の問題が大きな社会問題となっており、そのため、様々な方面からその対策がとられている。これはレジャー・レクリエーションの分野においても大きな課題である。特に高齢者の生きがいやライフスタイルの構築が求められるなか、高齢者自身が余暇時間を楽しく、より良く過ごせることは、高齢者の“QOL”に欠かすことが出来ない。

また、生涯スポーツの観点からは、高齢者の運動・スポーツ活動が盛んに行われるようになってきており、ゲートボール人口の増加、ニュースポーツの普及、そのほか高齢者の健康教室などが盛んに行われている。また、別の視点では高齢者の知的欲求を満たす側面から生涯学習・教育のプログラムなども盛んに行われている。特にレクリエーション活動の分野において、このような活動が高齢者の“QOL”を進める上で身体的な健康面だけでなく、人間交流・社会参加の面からみても有効であるとする研究が多くみられる。しかし、そのような研究のなかには、今後その機能を高める上でもその内容に質的向上の余地のあることも示唆している。

そこで、本報告は、上記の観点から1994年9月に北米のインカネーション・キャンプを訪問し、そこで行われていたエルダーホステルのプログラムを紹介することにより、今後の高齢者のためのプログラムの方向性を探る資料とすることを目的とする。

2. エルダーホステル (Elderhostel)

エルダーホステルとは、高齢者のための生涯教育とホステリング精神（簡素な旅行によって見聞を広め、健全な精神の発達を促進する）の融合を目的としている。6日間（日曜～金曜）の宿泊を基本とし、参加資格は60歳以上であれば学歴に関係なく、大学講師などの講義を受講出来るが宿題や評価などはない。参加費は、経済的問題を考慮し、出来るだけ安価な設定にするなど、高齢者が気軽に参加が出来るものと言える。

第1回は1975年にニューハンプシャー州立大学ほか4校でエルダーホステル講座が行われた。この動きは全米に広がり、現在では日本、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドにまで広がりをみせている。日本での活動は、1986年に第1回が開かれ、1994年には年13回の講座が全国各地で開催されている。そのテーマも文化、宗教、自然観察、歴史などが主となってきているが、特に自然に関係するテーマが増えている。

3. インカネーション・キャンプ (Incarnation Camp)

インカネーション・キャンプは、アメリカ東部コネティカット州に650エーカーもの広大な森林の土地を持ち、現存するものとしては2番目に古い組織キャンプである。敷地内には湖があり、施設としては宿泊棟、大食堂、教会、医療施設などを有し、室内レクリエーションのための大ホールなども整っている。また、湖には、Water Activityのための設備も用意されている。中でも、1962年には対象がそれまでの少年・少女から高齢者にまで広がりを見せたこともあり、「休暇ロッジ —Vacation lodge for older adults—」が

開設された。休暇ロッジの中庭にはシャッフルボード、その周辺にはホースシューズ、パターゴルフが隣接されている。このような高齢者のための休暇ロッジの開設に伴い、同年「全米エルダーホステル—Elderhostel Inc—」に加盟している。

4. インカネーション・キャンプにおけるエルダーホステルの概要

ここでのエルダーホステルは、5月と6月、9月と10月に6日間の日程でそれぞれ行われている。キャンプ内の休暇ロッジを中心に宿泊施設に寝泊まりをしながら、様々なプログラムに参加することが出来る。主な1日のスケジュールは、表1のDaily Scheduleを基に進められており、その主な概要は、

<表1>

DAILY SCHEDULE

8:00 breakfast*

9:00 first Elderhostel period

9:15 discussion, arts & crafts

10:30 discussions

10:45 second Elderhostel period

12:30 lunch*

1:15 free time

1:30 third Elderhostel period

2:15 waterfront activities

6:00 dinner*

7:30 vespers

8:00 evening program

- ・ 午前のプログラムは、芸術・文学に関する講義や実際の創作が行われる。訪問当日は「シェークスピア」についての講義が行われていた。
- ・ 午後の「Waterfront Activities」では、湖での水泳やカヌーなどが行われる。当日はロングアイランド湾に車で移動し、ガイドの案内で自然観察が行われた。
- ・ その他のプログラムについても、それぞれ専門の指導員がその指導に当たっている。
- ・ 日々の食事は、食堂が完備されており、参加者はキャンプ場であっても食事に時間を割かれるようなことはない。
- ・ プログラム参加は、Elderhostel periodの時に、その内容が説明され、参加者はその内容や個人の体調、希望などによって自由にプログラムを選択することが出来る。

5. 訪問で得られた知見

インカネーション・キャンプにおけるエルダーホステルでは、キャンプ場の所有する施設や専門指導員によって、ニュースポーツや自然観察、水泳など様々な活動プログラムが実施されている。また、エルダーホステル本来の生涯学習の観点から、文学や歴史の講義、芸術などのプログラムも提供されていた。それぞれのプログラムを取り上げてみると、現在高齢者のための生涯スポーツ、生涯学習として実際に数多く行われているものであった。

しかし、今回訪問したエルダーホステルのプログラムで感じられた特徴は、周囲の自然環境の素晴らしさはもちろんのこと、特に下記のような特徴が感じられた。

- ①小旅行をし、6日間のあいだ、数十人の高齢者がキャンプ場で共同生活することによる人間交流の喜びが感じられること。
- ②一定の生活を通して各種の生涯学習、生涯スポーツのプログラムが同時に提供され、統合されていること。
- ③提供されている様々なプログラムがゆとりある時間配分であり、参加者自身が自由に選択出来る環境づくりが設定されていること。

今回訪問し、視察を行ったエルダーホステルでは、ゆとりある時間のなかで、参加者が人間交流の機会を広げ、多様なプログラムの中から自分にあつたものを選択・実践する。つまりは、高齢者自らがいかにして“QOL”を考えていくか、そのきっかけとなるのではないだろうか。高齢者のためのプログラムを考えたとき、上記のような視点に立ったプログラムが増えていくことも必要ではないだろうか。